

わたしの好きな よ

No.160

今月号で皆さんにご紹介するのは宗像神社の東の池に咲いているスイレンです。

一般的にスイレンは朝に開花し、午後に花を閉じるとされていますが、品種によって開花時間にばらつきがあるようです。日本に自生するスイレンはヒツジグサの1種類のみで、午後に開花し、夕方に花を閉じます。花が閉じている時間が長く、眠っているような姿を連想させることから睡蓮（スイレン）と呼ばれるのかもしれませんが。

スイレンに似た花として、ハスがあります。簡単な見分け方として、



<スイレン>

葉に撥水性があるものがハス、撥水性がないものがスイレンといわれています。花の咲く位置にも違いがあり、ハスは水面より高く咲き、スイレンは水面で咲きます。

スイレンは6月から10月ごろまで白やピンク等のきれいな花を咲かせていますので、みなさんも足を運んでみてはいかがでしょうか。



わが町の



寄居町の植物の達人 No.29



三友清史さん(茅町)

今月は寄居町の植物について特に、釜伏山の植物とアユの餌になる珪藻についてのお話をさせていただきます。

まず釜伏山の植物についてですが、秩父山地の一つである釜伏山は植物の宝庫で、春から秋にかけて様々な植物が見られます。いくつかの珍しい植物を挙げてみましょう。

このコーナーは、「寄居生活学の達人」として町に登録をいただいている町民講師の方々を中心に、そのうちくや技術、体験などを町民の皆さんに紹介するコーナーです。

尾瀬や霧ヶ峰に群生するニッコウキスゲは標高の高い高原などでよく見られますが釜伏山にも存在しています。6月上旬から8月上旬にかけて赤みがかった黄色のきれいな花を咲かせます。また、樹木の幹や岩に張り付いて育つムギランは、関東以西に自生しますが、釜伏山でも確認されています。シダ植物の一種のイワウサギシダも亜高山帯に自生する植物ですが、これも釜伏山で見られます。

このように釜伏山には様々な植物が自生しており、大変貴重なものや絶滅寸前のもも含まれます。釜伏山の植物について一人でも多くの人に知っていただき、自然を理解し保護する活動に加わっていただくよう、願っております。

では、もう一つの題目である珪藻に

ついてお話ししましょう。珪藻は淡水から海水まで広く分布し、食物連鎖の下位に存在しますが、魚類（アユ等）の餌として非常に重要です。植物系プランクトンの横綱とも呼ばれ、もし姿を消してしまえば生態系が崩れるとも言われています。前述しましたが、アユの縄張り争いは餌（珪藻）の取り合いでもあることから、「友釣り」という漁法が生まれたようです。

現在の荒川は、昔とだいぶ様変わりしています。澄んだ水に住む水生昆虫や魚も絶滅が危惧されています。荒川も釜伏山も寄居町の宝です。自然を大切にすることは子どものころから養っていかなければなりません。山は青きふるさと、水は清きふるさとを守っていくことに私も微力ながらつとめております。



ニッコウキスゲ



ムギラン